

カズの書道講座 (七)

デフォルメの要素

人物でもそうですが、オーラのある人は、背が低くても大きく見えますよね。特に尊敬する人や憧れている人等は、一層大きく見えるものです。

書（文字）も同様で、良い文字というものは小さく書いても大きく見えるものです。逆に大きく書いても大きく見えない、寧ろ小さく見えてしまうものは、良い文字とは言い難いです。手本を見て書くと「手本よりも大きくなってしまおう」と、経験したことはありませんか。これも一つの例ではないでしょうか。

〈例Ⅰ〉

図版「の・道」①・②の例をご覧ください。

①は、勢いよく最後をすーっと払っていますから、伸びやかに元氣よく見えます。

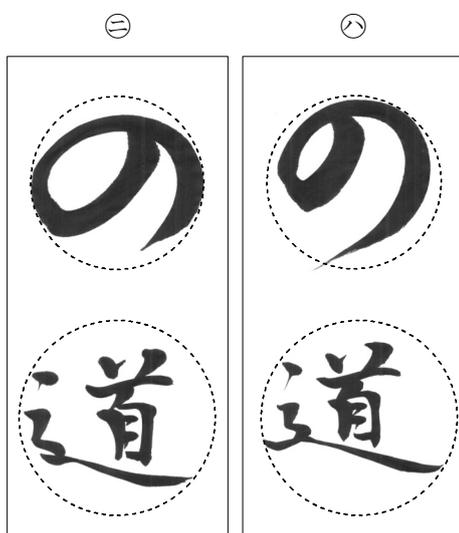
②は、勢いはあまり感じられませんが、ゆったりとした温かさが伝わってきます。



考え方

文字に接するようにして円を引いてみます。

(①・②)



証明

同じ大きさの円に入れると、②は①の文字よりも大きく見えます。

解答

ふところの広い文字は、小さくても大きく見えるということなのです。

解説

強く見える文字や勢いのある文字は、一瞬眼が奪われがちですが、比較しますと、ふところの広い文字は文字内の面積が広くなりますので、小さくても大きく見えて来るといふことです。書を鑑賞する上で最も重要なポイントですから、意識して見ることです。

〈例Ⅱ〉

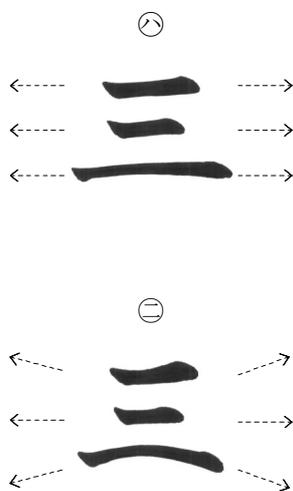
図版の「三」の例をご覧ください。

①は間隔をそろえて同じ方向に書いたものです。

②は間隔をそろえてそれぞれ違った方向に書きました。



考え方
線の延長線を見て下さい。



証明

①の広がりはありませんが、②はだんだん広がります。

解答

線の方向で文字に広がりが出来るといふことです。

解説

①の線は平行ですから、その延長線はどこまで行っても交ることも、広がることもありません。②の場合、その延長線はどんどん離れて行きますので、広がって行きます。